

打や鼓のしらべ、
三味の音色はやか、ぬ場處も

朗読 幸田弘子

たけくらべ

本年度・芸術祭参加作品



…今秋、青山の能楽堂で、樋口一葉

の代表作が、美登利と信如に迫る新

バージョンで、幸田弘子の朗読、今

井尋也の小鼓とともによみがえる…

小鼓 今井尋也



廻れば大門の見送り柳いと長け

幸田弘子・一葉朗読の集大成、ここに結実！

10月28日(金) 14時 / 19時

10月29日(土) 13時 (開場はそれぞれ30分前)

鑢仙会能楽研修所 (港区南青山 4-21-21-29)

チケット (階段形式の自由席各回150名)

前売り 3500円 当日 3800円 / 学生 2500円

予約・お問い合わせ (当日券は会場でお求めください)

メール vzd07320@nifty.ne.jp

幸田弘子の会 TEL (03) 5953-8310 (9:00 ~ 18:00)

お申込みいただいた方からチケットをお取り置き、または郵送いたします。

※ 電話が変わりました。旧：03-3223-7500
正太さん、私は... ではありません

は櫻の賑ひよりか
き玉菊が燈籠の頃

「たけくらべ」は、樋口一葉（一八七二年、一八九六年）の最晩年、「奇跡の十四か月」のなかで書かれた作品群のうちの代表作のひとつ。

これまでの「たけくらべ」研究では、一葉がこの作品にかけた凄まじい執念が明らかになっている。

今回の幸田弘子の朗読は、今までの舞台公演テキストに、さらに当時の吉原あたりの懐かしく見事な風俗描写の箇所を織り込み、子どもたちを取り巻く環境が生き生きと描かれる。

また、美登利と信如の心の琴線に触れるさりげないディテールに、新たなたけくらべを知る思いである。

銀座能楽堂で好評を得た「にぎりえ」に続き、今回は青山鉄仙会の能楽堂で、演出も行う小鼓の名手・今井尋也を迎えて、子どもたちの儚く切ない物語はクライマックスを迎える。

幸田弘子（こうだひろこ） 朗読

東京生まれ。NHK東京放送劇団に入団、放送・舞台などで活躍。朝ドラの名作「雲のじゅうたん」の準主役や、舞台「オンディーヌ」のヒロインを演じる。1977年から毎年「幸田弘子の会」を開く。以降、樋口一葉を中心に、古典から現代まで、東西の幅広い名作を朗読。日本経済新聞で「朗読家ベストワン」に選出。井上ひさしら、名作家たちが「幸田弘子を聴け！」と称賛しつづけてきた。「読んでわからない古典や純文学ですら、幸田弘子が朗読すると心の底から理解・共感できる」というのが、その趣旨。



「舞台朗読」という新しい分野を確立した功績として、1981、82、84年と続けて芸術祭優秀賞を受賞。84年度芸術選奨文部大臣賞受賞。95年毎日芸術賞、96年紫綬褒章、2003年旭日小綬章受賞。朗読CD、DVDなど多数。著書に『朗読の楽しみ』（光文社）。

今井尋也（いまいじんや） 小鼓

前橋出身。国立能楽堂、東京芸大を経てフリーの小鼓演奏家として活躍中。古典から現代音楽まで幅広い音楽性と迫力の肉声、美しい鼓の音色で小鼓の可能性を極限まで追求。脚本家・演出家として活躍するほか、ジェローム・ベル等海外の演出家の舞台にも多数出演。地方の歴史、民話、神話を題材にした新作能や市民ミュージカル等の脚本・演出・音楽も多数手掛ける。朗読の幸田弘子氏とは、2015年春の『にぎりえ』（銀座能楽堂）、2016年春の『萩原朔太郎』（前橋煥乎堂）に続いて、三度目の共演。

本年度・芸術祭参加作品

たけくらべ

朗読 幸田弘子

小鼓 今井尋也

台本・舞台構成 川端博

企画・監修 三善里沙子

2016年10月28・29日



鉄仙会能楽研修所
「表参道」駅下車 A4 出口徒歩 3 分
港区南青山 4-21-21-29
TEL.03-3401-2285